

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	西原 真弓

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実践英語音声学Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、英語の基礎技能の向上に必要な音声面の知識と技能を身につけるための必修科目である。これまで受けてきた発音指導に関して振り返り、自分が獲得できている事項とできていない事項を自己認識することから始めた。それぞれの学生が自分に必要なことを認識し、自己目標を立てることにより、自律的に学びを続けられるように、授業内では、発音の仕組み、練習の仕方、自己評価の仕方などを教えるようにした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケート内の到達度自己評価の中で、特にこの科目で目指していることを評価するためには、(1)(2)(4)(5)(6)(7)が関連してくる。(1)自分なりの目標を達成したでは、30名中28名が「かなり」「わりに」そうだ（平均4.5点）と思うと答えている。発音に関する自己評価は通常低くなる傾向があるが、自己評価が比較的高くなっている理由として、自信をつけることができたと言えると考えられる。(2)新たな知識獲得については平均4.8点でそうであると答えている。また、自律的に学ぶ方法を教えていることに関しても(4)(5)の課題検討の方法や判断方法などについての自己評価が4.6点である。さらに、(6)さらに学びを深めたいという意欲を持てたという点に関しては、4.8点の評価であり、全員が「かなり」「わりに」そうであると答えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この科目は、英語学科での英語運用能力を身につけさせるための基礎科目として重要な位置づけの科目である。また、学生の目標到達に関する自己評価も高いことから、学科の専門的な学びのスタートとして適切な科目であると言える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	評価基準や課題等に関する指示の明瞭性に関しては問題はなかったようである。また、説明のわかりやすさも評価が高い。授業内で、できるだけ、質問をしやすい雰囲気を作るように心がけていたので、今後も同様にこの点は大切にしていきたい。改善をすべきであると考えられる点としては、授業外で課題以外の学習が全員できるように工夫をしなければならないという点である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	この科目に関しては、教員と学生が到達目標を共有しており、お互いに達成したと言えると思う。知識・技能を教えるだけでなく、自己認識をさせ、自分で学習する方法や、評価をする方法を教えていったのがよかったと思われる。ただし、それが受講者全員に行き渡っているかということと数人にとってはまだ少し課題があることがわかる。この点を工夫していかななくてはならないと反省している。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
グラマー・コンポジションⅠ	1	前期	必修	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 高等学校までの履修科目や習熟の状況については、学生ごとに大きな隔たりがあるため、既習事項と思われるものについてもわかりやすく解説しながら授業を進めることに注意した。 ② この科目は英語学科における今後のさまざまな専門科目の基礎固めとしての位置付けの必修科目であるが、受講動機について「必修科目である」という項目だけではなく、「関心のある内容である」という項目を選んだ学生が3割近くいた。高等学校までの学びを振り返りながら新しく学んでいることを整理することができるような解説に心がけた。 ③ 予習の習慣がつくように、予習としてすべきことを明確に指示し、毎回予習してきたことについて確認する機会を設けた。 ④ 学生が復習をし、自分の学修の成果を確認できるように、毎時間前時の授業について的小テストを実施した。 ⑤ 毎回課題の確認をし、不十分な場合は個別に指導をした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の再試対象者は30名中3名であった。ほとんどの学生が標準的レベルに達し、理想的レベルに達した学生も多くいたが、一方で再試対象とならざるを得ない学生もいた。到達度自己評価については、各項目について「全くそうでないと思う」「少しそうでないと思う」と回答していた学生が若干名程度いたが、ほとんどの学生が肯定的に回答しており、各項目の平均値は3.8から4.6で、中央値は4.0から5.0であった。学生の学習量の確保のために、さまざまな工夫をし、学生の課題の提出の様子や小テストの結果からほとんどの学生が十分な学習時間を確保していたと思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPカリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は「英語スキル科目」であり、その中でも高等学校での学びを大学での学びにうまくつなげるための必修科目である。基礎基本の定着を目指して、基本的なことから丁寧に指導することに心がけた結果、予習や復習の状況や小テストや試験で一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績の平均値も高く、学生による知識理解についての平均値も高く、内容的には妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、いくつかの項目について「かなりそうでないと思う」「少しそうでないと思う」と答えている学生が若干名いたが、ほとんどの学生が各項目に対して「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、平均値は4.0から4.9で、中央値は全て5.0だったので、ほぼ目標は達成できたのではないかと思います。科目の特性上、学生が自分の意見をまとめたり話し合ったりする場面は作りにくいが、学生からの質問に対応する時間は毎時間確保しており、全体では質問しにくい学生のためには授業後の時間に質問を受け付けたり、メールで対応するなど工夫をしたが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目について1名が「少しそうでないと思う」と回答した。毎回予習や復習が必要な授業の形態をとり、毎回具体的な指示を出していたが、30分以上の予習や復習の時間をとらなかった者が若干名いた。宿題を提出しない学生はほとんどおらず、宿題を提出するにはたとえ他の人の答えを写したとしても30分程度はかかると思うので、設問を勘違いしている可能性も考えられる。課題に取り組みやすいよう解説の資料を配布するなどしたが、それでも取り組みにくい部分があったことも考えられるので、授業の中でも課題に取り組みやすいようにさらに説明を加えることにしたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	小テストや試験の成績から、基礎的知識の定着については、概ね達成できた。一方で、言葉を分析的に捉えたり、言葉のルールに注目することが苦手な学生もいて、毎回課題に取り組みのに困難を感じている学生もいるようだ。今後英語学科での学修を進めていくにあたって、この科目で学んでいることがどのように関係しているかということについて、その都度説明するようにしたが、より丁寧な説明が必要だと考える。予習や復習については、毎回具体的に指示したり、課題を提出させたりするなどに加え、学生が学修しやすいように、課題の説明を書いた資料を用意し、ほとんどの学生は毎回課題を提出していたので、学修の習慣ができたと考えられる。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	西原 真弓

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英検演習Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	今年度初めてオンライン教材を導入した。その目的は、この科目は資格試験対策を目的とする科目であるが、受講生の英語力の習熟度の差がかなり大きく、統一教材を使った指導を行う教育効果が低いためである。ただし、ライティングに関しては、書き方を基礎から教える必要があるため、全員一斉で授業を行った。つまり、オンライン教材による自己学習とライティング指導の一斉指導の両方を取り入れた授業を行った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの「到達自己評価」を見ると、(2)知識の習得に関して4.8点と評価が高い。また、オンライン教材であったため、最初の実力テストにより各人に合ったレベルの学習が組まれていたため、自分が正しく理解できていなかった知識や技能に関して徹底的に練習ができたことが、(4)専門分野の課題を検討する力(5)的確に判断する力などの高評価に繋がっていると考えられる。また、ライティングの一斉指導では、それぞれの学生が英語による表現力を身につけることができるようにとの思いで指導したが、これに関しては一斉で行ったことで、難しくてついてこれなかった学生がいることが気になった（1名：少しそうでないと思う,3名：まあまあそうだと思う）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この科目は、英語の資格試験対策科目であるため、英語学科での学びの動機付けと力の伸びの可視化のために、1年生前期で設定することは妥当であると考ええる。また、学生たちの目標達成の自己評価も比較的高いため、特にスタート科目として難しい科目設定ではないと言える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価に関しては、すべての質問で4.9点という比較的高評価をいただいているので、オンラインと一斉指導のミックス型は機能することがわかった。しかしながら、この科目の最大の課題は、習熟度に大きな差がある受講者グループに対してどのように効果的な学びを提供するかという点である。今回初めてオンライン教材を導入したが、習熟度が相対的に高い学生たちには非常に教育効果が高いことがわかった。しかしながら、基礎的な力が身につけていない学生にとっては、教員による補習が必要であると思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目においては、各学生が自己の英語力を診断し、自分に必要な学びに焦点をあてて学習ができるオンライン教材を使用した。科目の目的にこの学習方法が適していたと言えると思われる。ただし、オンライン教材であっても、ライティングの一斉指導であっても、基礎力に課題がある学生に対しては、もう少し丁寧に指導をすることが必要であると反省している。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英検演習Ⅱ	2	前期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	旧カリの「英検演習E」に続く科目であるが、新カリでは、単位取得条件として英検準1級合格を設けない代わりに、高いレベルの英語力がある学生だけを対象にハイレベルの授業を行った。また講義期間中に英検準1級の受験を強要しなかった。その結果、この講義をきっかけとして、合格に向けて学生が無理ない長期計画を立てることができるようになった。受講生には『出る順パス単準1級』を購入してもらい、かつては教員が範囲を指定して決めていたが、学生にどこまで覚えたいか（1週間で覚える時間があるか）と聞いて、学生の意見を優先したところ、モチベーションも上がったようで以前のように進むことはできなくなったが、学生が納得の上で全体の三分の一くらいの単語を半期で終えることができた。「毎回行う単語テストも成績に含んでほしいです」と自由記述に書いてくれた学生がいた。毎回の単語テストを14回目の授業で一気に点数化していることへのコメントである。単語が点数化されることには変わらないが、毎回の点数が可視化されたほうがやる気が出る、という気持ちはわかるので今後の参考にしたい。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業アンケートの「2達成度自己評価」では（7）で4.6と高く、次に(4)で4.4であったので妥当であったと言えるかもしれない。「学習量の評価」の自由記述では、授業の課題以上に学習に取り組まなかった理由として全員が他の課題で手一杯であったという趣旨の意見を述べている。成績割合は秀49%優13%良13%可13%不可13%であったので総合的に「やや達成された」とする。半分の学生は真面目に取り組み、欠席がちの学生がその頻度に応じて良、可、不可となった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置付けからみた内容的妥当性・・・本科目は「英語スキル科目」であり「英検演習I」で英検2級に合格した学生が最終目標である準1級を目指すクラスであり、内容的には妥当であるとする。②DP行動目標からみての内容的妥当性・・・本科目では、知識理解に重点を置いたもので、ハイレベルの単語を単語帳を確実に覚えるなど一定の成果を収めており、内容的には妥当であったとする。③まとめ・・・以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学修のための情報利用では、レポート執筆のために図書館の英検の問題を活用するように促した。アンケートの図書館利用では、7名中3名しか「利用した」と回答していないが、そのほかの学生は自分で購入した英検の本を活用したということである。各回の課題、最終レポートと、総合的なDP1の能力を試す場としての試験を最終回に行い成績をつけた。自由記述欄に「過去問をたくさん解いた」と回答した学生がいたが、過去問にたくさん触れ、しっかりと理解していくことがこの授業の醍醐味であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「英検演習I」が細分化されるか、「英検演習I」とこの講義の中間レベルの授業が設定されれば、もっと学生のニーズにあったレベルの授業を多くの学生に提供できるのでは、と思う。現行のカリキュラムの中で、ハイレベルの学生の受け皿となるこの授業は貴重な存在であり、授業期間中のみに英検準1級を合格するのは難しくても長期的に合格するためのスタディスキルズを提供できる授業を今後も改善していきたいと思う。しかしながら2025年度以降の新カリには英検の授業はない。英検関連のテキストは市販のものも充実しており、ハイレベルの学生には、TOEICの授業の進度に応じて学習を続けていってもらいたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語プレゼンテーションⅠ	2	前期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	As we want to encourage critical thinking skills, this course is built around a series of projects that the students work through while learning new skills. This allows the students to have more control over their workflow and thus they are able to keep moving ahead at a pace that suits their ability. For this semester, we focused as always on the media itself, looking at design and usability. The students worked through a series of lesson modules to achieve the goals of the course. In semester 2 we will focus on content and delivery using the skills learned in semester 1.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	As usual, we ran the class using a semi on-demand style, mixing skills lectures with self-guided task work. The course was divided into skill-based activities that had to be completed and graded before being able to move to the next stage. This ensured that all students remained on target to complete the work. This generally worked well. This year, both A & B classes were in the same class which had mixed results. The average grade was 78.01%. Lowest score was 60%, highest was 97%, with a standard deviation of just 17.35. No students from either class failed the course because of attendance or work issues though some students barely achieved a passing grade.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Knowledge and understanding (DP1) of the design and implementation of good presentations consistently improved. The nature of the work meant they needed to use critical thinking skills to move ahead, so DP5 was achieved. And their generally positive attitudes fulfilled DP4. All in all, the goals of all three DPs were achieved in equal measure in all classes.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	For next year, the plan is for the content and coursework to remain largely the same as for this year as this program worked well for most students and good results were achieved by students who attended consistently and submitted completed work. All in all, it wasn't the best practice to combine A and B classes as this caused some problems with attendance and work effort. However, I feel those issues were more to do with this particular group than as something to be worried about in future classes.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	Transparency is a key part of the assessment process for this courseThe rubrics we created for this course worked very well and enabled the students to see both grades and feedback in realtime. We will continue with this system next year, though will continue adding more content to the rubrics. This will give students a clearer picture of their weaknesses and strengths.

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語プレゼンテーションⅢ	3	前期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The aim of this course was for students to develop the ability to explain elements of Japanese society, culture and history in English without the need to rely on any support prompts. The first steps towards achieving this were for students to gain necessary background knowledge themselves, and then to learn how to naturally explain this in English. Here, I made the decision to continue using the bilingual reference book I have been using since I started teaching the course, which seemed to work well. Indeed, one student noted that they enjoyed the textbook and would read it in their break time, which was reassuring to hear. I wanted to ensure students could also transfer what they were learning to other contexts, in other words to be able to make use of the language learned to explain related situations, and I experimented with a range of different types of activities to achieve this aim, while also trying to maintain student motivation. While teaching the course I felt that this went well overall, and this was backed up by the student survey results. Another key element of this course was regular oral assessment, which seemed to help with structuring and supporting students' out of class learning.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	All students demonstrated that they had achieved the learning aims of the course through the various assessment pieces and weekly classroom practice; of course to different extents, but overall at a high level of achievement. It was clear that students' subject matter knowledge, and ability to express this in English, was becoming more and more sophisticated throughout the course. Overall each student strived to improve in their own unique and individual ways, and each student showed a progressively maturing level of interest in the content being covered.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	There seems to be no particular problems regarding this.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	The smaller class size compared to last year made it much easier to conduct the oral examinations and to give individualized feedback, instruction and assistance. Overall the class seemed to go well, achieving its stated aims, and with no particular requests for changes being made by students. However, I would like to continue to consider how to more effectively conduct the class, for example in terms of methods of vocabulary and grammar instruction, and ways of balancing this with output practice conducted at varying levels of spontaneity.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	Overall I feel that the class went well, and that I could make improvements from last year, making the most of the smaller class size. Although I will not be teaching this class next year, if I have the chance to teach it again in the future, I would like to continue to make adjustments in the areas outlined above.

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションⅠ	1	前期	必修	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course is divided into two sections: Skills and Communication. For my classes, I taught "Skills". We used the textbook "UnCovered 3" (Cengage Publishing) which offers students many chances to refresh skills and knowledge they learned in their high school yrsrs as well as communicate using English in fairly authentic situations. During each lesson, students had ample opportunities to create conversations, question and answer each other, practice listening, and perform presentations. This was an excellent introduction to English studies at Seinan, and these classes worked on their English very proficiently, particularly so for B class.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	Students were assessed on 4 criteria (Classwork 45%, Vocabulary 20%, Final test 20%, and Presentations 15%). All students scored well in all areas. For the final assessment, grades averaged 85.6% in A class and 90.1% in B class. Standard deviations were 4.20 and 3.51 respectively. Grades ranged from 80% to 97%.					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Both of these classes were extremely focused and hardworking, and they progressed well in all areas. They were strong in knowledge and understanding for DP1, and their positive attitudes and application to tasks meant they scored well for DP4 and DP5. It is fair to say that this class achieved all the DP goals that were set.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

This course will not be run in 2025 because of a new curriculum. The current course will be changed and a different textbook will be used.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

This course will not be run in 2025 because of a new curriculum. The current course will be changed and a different textbook will be used.

学科	英語学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションⅠ	1	前期	必修	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course is a Communication based class. In this class, students practice reading, writing, listening and speaking, but the bulk of the activities were speaking based. In addition to the use of dialogue drills for listening and speaking, students also practiced with information gap exercises, role plays, reading comprehension, and vocabulary building exercises. The textbook exercises, along with supplementary communication activities, helped students review and reinforce their basic English skills.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	Assessment was made based on in-class work (20%), performance and active speaking checks (40%), small tests (15%), and a final test (25%). Most students were able to achieve a final grade of 70 - 90%.					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students took advantage of helping and receiving help from other class members, and by working together in small groups. Good classroom dynamics helped to create a positive and "safe" class atmosphere in which students feel more comfortable taking risks when expressing themselves in English. This, in turn, contributed to a high level of participation and increased understanding of the material. While a lot of material was covered over the course of the semester, students seemed satisfied with pace and progress of the class.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Review of the previous class material is always useful, but often took time away from new class material and practice. By posting all pre-study and post-review materials in the online learning management system, students had unlimited access to class material. This proved to be especially helpful for lower students who benefited from reviewing target language and skills for each unit at their own pace.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	More frequent reminders about note taking, completion of homework and lesson review may help keep students focused on clear objectives for each class. After initial instruction, students should be encouraged to review lesson targets again, and prepare for the next class using the posted review material and homework.

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語ディスカッションⅠ	2	前期	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The course aim is to help students develop discussion skills and to be able to clearly present and explain their opinions about the topics under study. The focus of the course was getting students to discuss and share their opinions, to gain practice and skills in using English to express what they thought about various topics. Students completed the required work, and I believe were able to engage in the discussion activities and use English to express their ideas at a satisfactory level for their ability. Student attendance was generally good, and the students completed all the required work in a timely fashion. Overall I felt they displayed good understanding of the course material and an ability to work with the course content.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成されなかった		やや達成されなかった		やや達成されなかった
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	Assessment for the course was based around students' capacity to engage in discussion activities, showing a willingness to express their opinions, work with others to reach consensus on discussion points, and show the ability to reflect critically on ideas of others, either verbally or through written exercises. Generally, the students worked to acheive this. All students made efforts to express their opinions in English, and in general asked for clarification anf assisstance if they were facing problems. Some areas were difficult, such as the ability to apply critical thinking to the issues under study and there was some weaknes in terms of grammar and vocabulary knowledge, however students worked within their ability and made efforts to improve their weaknesses. All students passed the class, with a average final grade of 72 (SD = 6, N = 8) and median = 71. One student failed the class due to poor attendance, while one student received a mark below 70 due to low completion of the required classwork. Of the remaining 8 studetns, only 1 received a grade above 80. These results were somewhat weaker than previous years, and were related to somewhat weak performance in the short tests (vocabulary tests) and class presentations.					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students were focussed on the course content and generally tried to contribute to the class discussions in a positive manner. Overall they made good progress, and generally took part in the required discussion and presentation activities.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	In addition to encouraging student participation in discussion activities, I also worked on helping them to build their ability to present ideas in the form of short presentations. The students demonstrated proficiency in using the target language to express their opinions at a lower-intermediate level. Most of the students showed a willingness to share their opinions with their classmates, and exhibited a general understanding of and ability to work with the target language.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	We will be working with the same textbook and using the same course format next year. Balancing the time in class to give students enough time to prepare, practice, and express their opinions equally is an ongoing challenge. Working to get students to move beyond giving basic responses, and thinking more carefully about the different perspectives involved is also important, and of course helping them develop the ability to then express their opinions here.

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語ディスカッションⅠ	2	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This active learning course is divided into discussion and presentation based learning. Through active listening and reading comprehension activities, students have the opportunity to learn about relevant social issues which are currently being discussed on a global level. After gaining an understanding of an issue, students are guided through intermediate level discussion and information gathering activities, and learn key language to express individual opinions as well as respond and react to opposing opinions and conflicting ideas. Finally, students are encouraged to prepare and present on the specific topic using the language and knowledge they have acsqiured throughout the lesson.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	Assessment was based on active participation 10%, completion of submitted homework assignments 10%, performance and presentations 40%, unit quizzes 20% and a final test 20%. Final grades were mostly in the 60-80% range.					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students learn to prioritize helping and receiving help from other class members, and working together in small groups. Good classroom dynamics help to create a positive and "safe" class atmosphere in which students feel more comfortable taking risks when expressing themselves in English. This, in turn, contributes to a high level of participation and increased understanding of the material. Students were also encouraged to move outside of their usual cohort group to gather information on the assigned topic from friends and family members across-generations. This expanded data collection and allowed students to come to class with a variety of opinions and ideas related to the topics being studied.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	The small number of students in this discussion and presentation class provided students the freedom to express themselves more freely and more comprehensively as turn taking was not prioritized. Students could contribute multiple times each class, and engaged in open dialogue with a focus on sharing opinions and personal experiences without judgment. This was not only beneficial to the students, but also to the teacher as she could take a step back and allow students more freedom to control this aspect of the class themselves. Students could really benefit and improve from this freedom.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	The teacher's strict attention to student achievement through active class tasks, as well as paying close attention to classroom management and encouraging individual student participation is an absolute necessity with active learning. Of course, some students needed more teacher encouragement, reminding and pressure in order to keep up on assignments.

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語プロジェクトⅠ	3	前期	必修	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	As the name suggests, this course is taught using a project-based approach to learning utilising task-based and critical thinking activities. The course was built around four 3-week topic modules (Health, Society & Relationships, Businesses and SDGs, Kitakyushu & the Environment) as well as a personal project. The students were taught strategies for developing projects and how to research them. Most of the class was completed using groupwork, with a presentation or sharing component at the end of each module. For this year, the classes were combined so that all Year 3 students were taught together.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 4 criteria (Classwork 20%, Research and Preparation 20%, Final project 20%, and Presentations 40%). All students scored well in all areas. For the final assessment, grades averaged 90.22% with a standard deviations of 7.29. Grades ranged from 84% to 100%.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	As a lot of research was involved, the goals of DP1 for knowledge and understanding were well achieved. As they had to analyse data and information, the thinking skills of DP2 were well used. All of the students enthusiastically applied themselves to the activities, so DP3 was achieved. Finally, because many of the activities required communication skills, plus they had to perform and watch many presentations, DP5 was successfully completed.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	The program as it stands requires little in the way of adjustment for next year. However, I would like to include a greater amount of student planning in the program as the current format is more teacher-led than it should be. This is an important part of the skills they should be refining in this class. This year, both A and B classes were combined, and I think this weakened the output. Hopefully that can be revisited in the future.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	Assessment in this class is both transparent and negotiable. For each module, students were graded on the work they completed. Grades were decided from both the teacher's and other students' feedback, and were shared with the students. Students were always given the opportunity to negotiate their grades for any project, and in two cases, the students successfully did this. This system worked well, so I see no need to change the assessment format for next year.

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
グローバル英語Ⅰ	4	前期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The aim of this fourth year course is to integrate the various English skills and multidisciplinary studies from their previous university years into a course where they can discuss and present in depth about English from a global perspective. Although many students thought it is a required course, it is not. Eventhough just under 50% of respondents replied that they were interested in the course. As the content of the course is adaptable to the interest of the students, making the content relevant to them helped in creating positive energy in the class.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	In general the various DP goals were attained, although at times it was felt that the level was a bit challenging for some of the students. That said, approximately half of the students received grades of S or A, with no failures. Those that did well put in the time and effort to prepare and participate in class activities.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

This course is well placed in the curriculum map. Not only do the students have the opportunity to use the skills that they have acquired over the last few years, but also to reuse and solidify the knowledge they have gained in previous courses. Their motivation and improvement can be supported by the students' evaluation scores of between 4.5 and 4.8.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Student evaluations of the course ranged from 4.4-5.0 which would indicate that the course was successful. As the instructor, I, too, felt that the course was a success with students not only reconfirming prior learning, but also discussing and sharing their research on a variety of relevant topics.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

The course was successful and there are no particular adjustments that need to be made as the course adjusts to the students needs and interests every year.

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
リーディング I	1	前期	必修	はい	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The aim of this course was to help students improve their reading. During the scheduled class time this involved doing reading and vocabulary activities. Outside of class, students were expected to engage in regular reading homework, with the goal being to read around 150,000 words over 15 weeks. The XReading virtual library and LMS was used to provide students with reading material and grade out-of-class progress. Most students engaged in the class seriously, and kept up with the required work. The class is quite challenging, but students generally accepted this worked to complete the requirements.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	Class assessment was heavily weighted towards the outside class reading component of the course (60%) with the final test contributing 20%, and some small projects and class performance making up the remainder of the grade. Students received weekly feedback on their reading progress, along with guidance and opportunities to improve their performance if they seemed at risk of failing. As with past years, one challenge is with getting students to do the outside reading regularly due to numerous competing demands for their time. Two students failed to complete the course due to attendance problems. For the 32 students who completed the course, the average grade was 83 (sd = 11), median grade 81. Fourteen students received a grade below 80 as they failed to do the required reading consistently each week.					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など						

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The level of participation and commitment from students was generally high, and a clear understanding and commitment towards doing the required out-of-class reading necessary to successfully complete the course. The students who focused on the classwork and managed to meet their regular reading goals all reported a sense of satisfaction with developments in their reading speed and understanding.
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	The course is focused on attaining certain goals - reading X number of words, or X number of books, but at the same time demonstrating comprehension of the material being read. We are seeing similar outcomes as previous years, with a small number of students having issues with the out-of-class reading. Giving advice on how to manage their time and suggestions on when to read are somewhat helpful here, but it is still a challenge that is invariably down to the students' own time-management and self-regulation skills. As in previous years, finding a way to help students who have trouble engaging in the out-of-class reading component of the course is important, as these students invariably are unable to successfully complete the required outcomes.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	This is the final year that I will be teaching this class. The main suggestions I can offer are to work on helping students improve their reading speed, and to help them develop useful strategies for reading.
-------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	西原 真弓

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
リーディングⅢ	2	前期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、中級リーディングの科目である。授業を始める際に、読んだものを理解できたと言える規準を学生と共通理解した。よって、毎回の授業では、英語で読んだものを自分のことば（英語）で人に伝えることができ、さらに、それぞれのテーマに関する賛成・反対意見に対して自分の意見を表現させて進めた。これにより、授業に来る前に必ず予習をし、自分のことばで内容を他の人に伝えることができるように深く読み込んでおかななくてはならない状況を作っていたため、授業内では全員が発言をする機会が与えられた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	この授業では、英語の読み方を指導するため、授業内で日本語に訳すことはしていない。内容を把握し、自力でサマリーや意見を作れるようにすることに重きを置いた。そのため、一部の学生にとっては難しい授業であったと思われる。それが、授業評価アンケートの自己評価(1)は4.3点という低い評価に繋がっていると考えられる。しかしながら、(2)知識の獲得については4.7点と相対的に高いことから知識・技能についてはある程度満足度が高かったと言えると思う。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この科目は2年生を対象とした科目である。3年次からの専門的な学びに入る前に、情報の読み取り方や読み取ったものを自分のことばで表現する力を身につけておくことは重要であるため、この時期に置かれるのは妥当性があると言える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	リーディングの授業であるが、授業内では、自分の意見をまとめたり、意見を出し合い、授業に積極的に参加する機会を多く設けていた。そのため、授業の質評価では、それを評価する項目(4)が高く評価されている。難しい読み物であったり、積極的に授業に参加することであったりと難易度が少し高かったため、できるだけわかりやすく説明を行うように心がけた。その結果(3)説明のわかりやすさが4.7点であり、全員が「かなり」「わりに」そうだと思うと評価している。また、予習をしっかりとしておかないとついてこれない授業であったため、学習量もかなり多い。このことから、全般的には、このやり方で次年度も行いたいと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	全体的には、このやり方を踏襲し次年度も家でしっかり読んできて、授業内では、内容理解を深め、さらに発展的な活動ができるように組みたいと思う。しかしながら、読み物が難しいところも多かったため、読み物の難易度を少し下げるか、もしくは、訳ができないところをもう少し丁寧に扱うか、どちらかで改善をはかりたいと考えている。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	西原 真弓

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語学概論Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、英語という言葉を複数の分野から分析的に捉えるための理論を学ぶ科目であり、特に前期に扱う分野は難しいものである。そのため、受講生が英語学習者としてこれらの知識が役に立つと思えるようにできるだけ例を用いながら授業をすることを心がけた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	やや達成された		やや達成された		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	今年度は、(1) 学生の目標達成に関する自己評価が3.7と低い。受講生の半数は「かなり」「わりに」達成されたと答えているが、半数弱は達成感が十分感じられていないことがわかる。(2)の知識の習得に関しては、4.3点という評価であり、ある程度得られていると感じている。その他、意欲関心に関しては、(6)を見てみると平均4.2点である。これら3つの項目を詳細に見てみると、受講生のうち、三分の一の学生は、すべてにおいて「かなりそう思う」と評価しているため、理解ができた学生たちにとっては、意欲的な学習ができたと言えそうである。一部の学生たちが十分に学習効果を感じられていないことから全体評価を「どちらともいえない」とした。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップ上では、専門科目の入門科目であるため、この時期に置くことは妥当である。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度は、同科目の評価が相対的に高かったため、今年度は無意識のうちに丁寧に説明することがおろそかになっていたのかもしれない。その結果、授業の質評価の(3)説明のわかりやすさが4.3と低い。上記でも書いたが、全体の半分強は「かなり」わかりやすいと評価しているが、21名中6名が「まあまあそうだと思う」と消極的な肯定である。このことから、学生の理解度の確認がおろそかになっていたと言わざるを得ない。それを確認するため、授業の質に関する項目(5)の質問を受け付ける機会の有無に関しての評価を見てみると、ほとんどの学生は高く評価しているが、3名は「まあまあそうだと思う」と答えている。積極的に質問をする学生たちは決まっていたため、質問ができない学生、もしくは、わかっているかどうかがよくわからない学生などの存在に関して、もう少し気を配る必要があると言える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業で扱う内容が難しいため、学生たちの有用感が高まるように、扱う項目や例示の仕方、活動をもっと取り入れるなどの授業改善が必要であると考え る。また、質問の機会を広く与えるために、授業の振り返りシートなどを利用することで、あまり授業内で手をあげられない学生にも、支援の必要があることを表現できるような工夫をしたいと思う。

学科	英語学科
氏名	西原 真弓

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ライティング基礎	2	前期	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学科専門科目の中の必修科目であり、ライティングの基礎を固めるため、英文法を正確に書けるように丁寧に指導することを心がけた。また、今年度は、クラスを習熟度別に分けたため、自分がわかっていないところを周りに気兼ねなく質問ができるように、質問しやすい雰囲気と皆で学び合う環境を作ること大切にした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	適切な英文を作ることができるようになることが目標であり、各学生の目標達成度を知るために授業評価アンケートの到達度自己評価の(1)を見ると、平均点が4.0点であり、学生によって到達できた（5名/7名）という評価と、消極的な評価（まあまあ、少しそうでない）が2名/7名と差があることがわかる。しかしながら、(2)の知識の獲得に関しては、全員が肯定的に評価しており、5名/7名は「かなりそう思う」と答えており、自己到達には消極的な評価をしていた2名/7名も「わりにそう思う」と答えている。さらに、(7)の専門分野で必要となる技術を身につけることができたかという問いに対しては平均点4.9点で、7名中6名が「かなりそう思う」と答えている。これらのことから、教員としてこの授業で意図した働きかけに関しては十分学生に届いているが、それが必ずしも学生自身の知識や技術の向上における自信にまでは至っていないと言える。以上の理由で評価を「やや達成された」とした。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	ライティングの基礎科目で、英語で1文が適切に書けることを目的としているため、ライティングが本格化していく前におかれているのは妥当であると言える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	リカレントの要素が多いこの科目では、学生自身が理解ができていないところを自分で気づき、それを質問しやすい雰囲気を作っておくことが重要であると考え。授業の質評価を見ると、ほぼどの項目も4.9点であるため、今後も授業の進め方は変えない方がよいと思われる。ただし、全員の学生自身の自信につながるように、もう少し個別に指導ができるような工夫をしたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業自体に関しては、全般的に見て、学生に伝わる授業ができたと評価してよいと思われるが、それが、すべての学生自身の到達を満足させられていないところが課題であると考え。もう少し、個別に対応していくことを考えなければならない。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ライティング基礎	2	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The course has two main goals. The first is to review and confirm some basic grammar, as well as other aspects relevant to writing. The second is to introduce writing structures in preparation for paragraph writing, which will be examined in more detail in the following semester. This is a compulsory course, which is the sole motivation for the students, as many have an aversion to writing. Therefore, it is also hoped that the course can instill in the students some interest in writing.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Overall about 65% of the students received a score of A or higher. The students with lower grades tended to be those who did not put in as much effort in the course, and those who were often absent. With more practice, which the students will receive in the paragraph writing course in the second semester, they will be able to gain a stronger foundation for their writing. For the weaker students the course was a bit challenging, while for the more advanced students they were able to improve their skills and gain more confidence in their production.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	It can be said that the DP and CP targets were met to a satisfactory degree as the students rated both their effort and the course with scores in the 4.0-4.3 range. The course sits well within the curriculum tree as a transition course. Reviewing basic rules that were introduced in the first year with a view to what they will need to do to succeed in the following years of the English program.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	As the course was evaluated by the students with scores between 4.2 and 4.5 it can be said to have been successfully concluded. The students generally mastered the material. There is not much need to recommend any changes to the course. The range of scores that the students achieved, as mentioned above, also support this position.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示してください。	Although the students succeeded in fulfilling the targets of the course, they often lacked interest in writing. This is one area that could be looked at in order to improve the success of the course.

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
エッセー・ライティング	3	前期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course aims to prepare students to write essays in English. In their final year of study several students will be required to write thesis papers in English. This course hopes to help them prepare in this endeavor. Half of respondents showed interest in the content of the course as well as the need for the course for their qualifications, which supports the aim of improving their more advanced writing abilities.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	The content of the course was challenging and students often find writing essays in English difficult to master. About 50% of the students received an A, but no students were able to achieve an S grade. Lower scores were not necessarily due to a lack of effort, but more a result of the inability to improve and adjust their writing to the situation. However, there were some students for whom their lack of effort guaranteed poor results.					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

This course sits well on the curriculum tree as it progresses from material introduced in previous years. It also prepares them for more challenging requirements in their final year.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

The material presented in the course was both appropriate and relevant to the students, as student assessment of the course was in the 4.3-4.6 range. It was found that reviewing knowledge of the course material on a regular basis was essential in the overall understanding. This should be continued, and, more importantly, started earlier in the semester.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

In the grand scheme of things the course was successful. Unfortunately, not everyone was able to improve their writing as much as was hoped for. Those who had a better base to work with were more successful. It is hoped that we can assist the lower level students more in their advancement of English writing.

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語文学Ⅰ	2	前期	必修	はい	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	必修の科目なので、文学を選択したい学生もそうでない学生も受講することとなり、英語学科には珍しく大人数のクラスとなるが、そのような中、文学の知識や楽しみを教授できるように工夫している。大切にしていること、重点を置いていることは以下の通り。英語で書かれた世界の文学の特徴を、その歴史の流れと関連づけながら重要な作家や文学作品を紹介する。またそれらの作品の原文を部分的に読む機会も設ける。早い時期に沢山の文学作品に触れて、読書の習慣を身につける。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	到達度自己評価においては、2024年度は、(1)3.2(2)3.8(3)3.7(4)3.4(5)3.4(7)3.5(8)3.2(9)3.0(10)2.8であった。2023年度は(1)(6)4.4(2)4.5(3)(4)(5)(7)4.3(8)(9)(10)4.0であった。2022年は(1)（3）(4)(5)で4,2であり(2)(6)(7)で4.3であった。（10）は2023,2022は例外的に高かったが、通年は毎回低めの評価となり、英語文学という特質上、職業倫理や行動規範などについて書いた作品でも選ばない限り、高評価を得るのは難しい項目であると分析している。評価が4.0の（8）において、コミュニケーション力は訳をさせることくらいしか、発言の場がなかったことを反省し、文学項目について周囲と話し合う機会も定期的に設けた3.2であった。学生の成績は秀32%、優32%、良0%、可36%であった。このように成績が分断化したのは初めてであった。成績がいい学生とギリギリの学生が混在するのは毎年のことではあるがその差が激しいのもこの学年の特徴なのかもしれない。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	今回の授業アンケートの自由記述・学習量（課題以外に取り組んだ）の評価では、19名中①14名②5名（2023年度は、①の学生が15名で②の学生が1名であった。）自由記述欄には課題以外に具体的に取り組んだ学習例として「小説の詳細などを調べて、知識を深めようと思いました」などがあった。自由記述欄の学習量（課題以外に取り組まなかった）においては、「何をすべきかわからなかった」という意見は14コメント中1つにとどまり、課題だけで十分であったという意見も多く、こちらとしても、課題をたくさん出しており、その課題でDPCPを達成するよう意図していたので、内容は妥当であったと評価する。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」は(1)3.8(2)4.0(3)3.3(4)3.2(4)4.73.6であった。（2023年度は(1)(2)4.9(3)(5)4.6(4)4.7で、2022年度は(1)4.3,(2)4.4,(3)4.2,(4)4.1,(5)4.3であった。）Googleクラスルームの使用を資料のアーカイブ化や、学生の宿題提出の場として利用する機会を今年も活用した。年々感じるのは、学生の和訳レベルの向上である。授業の3、4回目で和訳の時間を文学の歴史背景等の説明の時間にしてもらいたいという学生の声が上がった。そのリクエストに関しては、もちろん歴史背景等の説明も今後もしていくが、話の内容を細かく確認していくことをのぞいて作品分析はできないこと、すなわち、「読み」のプロセスを除いて文学の面白さなどは語れないことを説明した。また和訳を配布してもらいたいというリクエストもあった。このようなリクエストは今まで英語文学の授業を実施してきた中で初めてであり、リクエスト通りに進まなかったことと、私の説明に説得力がなかったこともあり、例年にない低評価となったのだと思う。しかしながら後期の選択科目の「英語文学II」をほとんどの学生が選択し、只今履修中である。1回目の授業では後期の授業形態も前期同様なので納得の上で履修するように説明した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	文学という専門領域を教えるにあたっては、教師の英語教員という枠を超えた深い専門性が授業の質に大きな影響力を持つ科目である。そしてその研究の内容を授業での情報提供や配布資料の充実という形で還元していけたらと毎年思いながら教育活動の傍ら研究をしている。達成状況としては、きちんと課題をこなし、出席をした学生はみんないい成績を収めたので、総合的には「達成」である。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語通訳演習Ⅰ	3	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course aimed to introduce to students basic interpretation and translation skills and strategies, and to provide a chance for them to practice these skills/strategies. Through this, it was hoped that students would be able to improve not only their interpreting and translating skills, but also their English proficiency levels. As such the majority of the class time was spent conducting the basic training methods of quick response, shadowing, retention, sight translation, consecutive interpretation, and note-taking. Students' underlying English ability inevitably influences their ability to interpret and translate, and as such expectations of levels of achievement and appropriate goals differ accordingly. I tried to take this into account when giving feedback and advice during class, and when giving feedback after assessment tasks. All students were able to show improvement throughout the course of the semester, and showed a developed understanding of how to conduct interpreting and translation, and how to use the basic training methods to improve their underlying English skills.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	Students' underlying English ability inevitably influences their ability to interpret and translate, and as such expectations of levels of achievement and appropriate goals need to differ accordingly. The English levels of the students taking the class did differ greatly, and I tried to take this into account when giving feedback and advice during class, and also after assessment tasks. The level of achievement of students differed, generally in accordance with their level of English proficiency. However, all students were able to show improvement throughout the course of the semester, and showed a developed understanding of how to conduct interpreting and translation, and how to use the basic training methods to improve their underlying English skills.					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	There seems to be no particular problems regarding this.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	The biggest issues I faced when teaching this course were how to provide enough authentic training and performance opportunities equally to each student. I experimented with different ways of conducting the class activities, and different authentic practice tasks, and tried to find approaches which were most effective for the majority of students. Overall I think I could develop an effective approach to achieving this, but would like to continue to search for better methods.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	As it was my first time to teach this course, I was most concerned with finding the most effective ways to conduct in-class and assessment tasks that closely replicate authentic interpreting situations. It is a challenge to create authentic situations that keep all students on task throughout the whole class. I found that at times it may indeed be more effective to incorporate more pair-based activities. I tried to experiment with different approaches, and sought student feedback on what they felt were the best approaches. Incorporating a variety of approaches that keep students on their toes, but which also aim to support improvement of their underlying English ability and interpreting/translation skills, seems to be the best approach. In the next semester and year, I will continue to experiment with this and seek student feedback.

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	西原 真弓

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
欧米文化交流研修 A	1	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、夏季休暇中にオーストラリアでの語学＋インターンシップ研修に参加することが大きな目的の授業である。研修が語学だけでなくインターンシップを含んでいるため、事前指導の中でオーストラリア文化の特徴、海外で働くために必要なスキルや姿勢、英語力向上などを行い研修に備えた。研修中のフォローアップ、事後の振り返りも含め非常に時間をかけて実施した授業である。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの到達度自己評価の(2)(3)(4)(5)(6)(8)の項目すべてにおいて平均点5.0点であることから、知識だけでなく、課題を見つけ柔軟に、的確に判断し行動する力、自己表現をする力やさらなる学びへの意欲が持てたことがわかる。(1)の目標達成の自己評価に関しては1名が「まあまあそうだと思う」と答えているため、自分が目指していた目標にはまだ努力が必要であることを認識していると考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この科目は、希望者がどの学年でも参加できるように設定している。経済的な面、語学的な面、精神的な面ですべて当事者が準備が整ったと思った時期に参加できるので、このような位置づけで妥当であるといえる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方に関しては、授業の質評価を見ると課題や学習に関しての指示が明確でなかったことがわかる。これは、事前指導の中では、その時その時でやらなければならないことがでくるため、計画通りにいかなかったというのが実態である。今後はもう少しコンパクトにまとめて出発前に比重をかける事前指導のやり方がよいと思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	実際に海外で働くという経験をする科目であるため、学生たちは、目に見える側面と目に見えない側面と両方においてかなり成長をした。今後、すべてこちらでおぜん立てをするという方法で過保護になりすぎず、自分たち自身で事前学習をさせることも組み込んでいくとさらに教育効果があがるのではないかと考える。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
メディア英語Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This is a practical semester 1 course for Year 1 students who were taught using a combination of the Moodle LMS "My Study" portal for coursework along with the school's Google Suite. This is the first media class that the students experience, and most of the course is taken up with working on basic skills, and getting them up to speed on the CHleru e-learning system. Each week, they were given goals to achieve and specific items to work on. We also took this opportunity to do some IT skill building. We provided instruction on how to use Google Drive's suite of tools (Docs, Sheets, Slides, and Forms) and how to share and work collaboratively on projects. We would all meet at the end of the class for 5-10 minutes to share and summarize what we did that day, ending with a free talk time for students who wished to use it.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	Attendance was generally not a problem at all (apart from one returnee student who never showed up), and completion of tasks was handled well by almost all of the students. All students passed the course with grades ranging from 60% to 68%. The average grade was 94.42% with a standard deviation of 6.92. These grades were slightly higher than last year's results.☒					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	All DP goals were achieved. In terms of willingness to work and attitudes, most of the students did very well, especially given the fact this was their first semester at school and that they were being taught a skills class in English for the first time. They were held back a little by their basic knowledge and understanding, but that is very understandable given they had just begun full English classes, were working with unknown systems, and had never met their peers or teachers. The IT skills they gained were extremely useful for them, and we can already see the positive carry over into other courses.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	They will carry the knowledge they gained through to all of their classes using the a whole suite of activities and resources we have built up. We provided a limited amount of instruction in the ethics of using AI and machine-translation tools, so hopefully this will encourage them to use them as a means of learning rather than a convenient tool for finishing work. Being a media class, the list of available online resources is massive, and we fully intend to implement as many of them as possible. Changes for next year include adding more instruction in the use of AI-powered tools such as DeepL and ChatGPT so that they can improve their English skills while utilising their functions.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	As in all of the practical courses, the class was assessed in a totally task-based manner. For each activity, they were given a grade which they could access at any time to check their progress. For students who were slipping behind, it was a quick process to provide feedback to them and encourage them to catch up. We don't envisage any need to adjust this process significantly. We do, however, need to implement some positive achievement system for those students (the majority) who submit work punctually and to a high standard.

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
時事英語入門	3	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	時事という分野は、難解なイメージが伴いがちである。そうした点を払拭するために、時事英語そのものだけでなく、取り上げた英文記事の背景知識にも言及し、それらを日本語で説明することで、内容自体にも学生が興味・関心をもてるように心がけた。また、最新の時事英語を毎日更新しているウェブサイトを紹介して、授業以外の時間にも時事英語にふれる機会を提供した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成されなかった	やや達成されなかった	どちらともいえない	達成された	達成された	どちらともいえない
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	DP1の知識理解に関しては，中間試験の平均点が，30点満点中23.2と良好な結果が得られた。しかしながら定期試験については，50点満点中24.1という結果に至った。満点に近い答案とほとんど無解答の答案など，受講者間での得点差が大きかった。それが平均点の下落につながった一因と考えている。授業貢献度や中間試験の結果が良好だったことで，この科目は単位が取得できる（60点をクリアできる）という目途がついて，気が緩んだ受講者がいたかもしれない。最終授業日から試験実施までの間がおよそ1か月近く空くため，その間の効果的な試験準備方法について，今後積極的に提示および実施してもらうための取り組みを行っていきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	時事的分野は、普段学生が意識しないとふれる機会が少ない分野であり、新聞、ネット、テレビなどのメディアで内容を見聞きすることはあっても、それを英語でどのように表現するのか、というところまでフォローしている学生は極めて少数と思われる。そうした前提に立ち、まずは記事の背景を含めた内容の理解を最大の目標として授業を展開した。学習到達度の自己評価においては、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という設問に対して、全員が「そうだと思う」を選択している点などから、内容的妥当性は確保されていると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	受講人数が少なく、英文記事の背景知識などについても情報共有を行い、さらにそれを深掘りするための意見交換やディスカッションを行うことができた。また全員が丁寧な予習をしていたおかげで、予定していたシラバスの範囲を完全消化することができた。全体として非常にスムーズな授業運営が展開できたと考えている。この点については、受講生全員に感謝したい。ただClassroomにアップロードした自主教材（学生から要望のあったTOEIC単語テスト）に取り組んだ学生が1人もいなかった点は残念である。彼女らの自主的かつ主体的な学習姿勢を向上させるような取り組みにも今後取り組んでいきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という評価項目に対して、全員が「そうだと思う」を選択しており、時事英語にまずは慣れ親しむという入門レベルの目標は達成できたと思われる。実際、自由記述においても、「とても良い授業で、毎授業勉強になり、面白かったです」など非常に好意的なコメントが記載されていた点もその表れである。これからも学生の授業満足度を向上させる取り組みに励んでいきたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
異文化間コミュニケーションⅠ	2	前期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The aim of this course was for students to gain an understanding of the fundamental concepts of intercultural communication, and to try to think about the connections between these concepts and their own lived experiences, the experiences of others, and various issues in society. I tried to incorporate as many group activities and discussion chances as possible to deepen students' understanding of the content and also their interest and motivation. I think this was successful, and I would like to continue this next year, at the same time continuing to search for other, possibly more effective, ways of conducting these activities to support student learning and understanding, and to deepen their interest in the field of intercultural communication.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された			やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	The majority of students displayed a good understanding of the course material, and were able to use it to explain their own experiences and relationships, as well as issues within society. This was clear through oral presentations and comments made during class and the weekly reflection papers, although some students failed to reach a deeper level of explanation in their reflection papers. Regarding the final papers, while there were some well-structured and well-written papers, there were also many which suffered due to a lack of understanding about the basics of writing an academic paper. This has been an issue in previous years too, and I have tried to address it by introducing resources about how to write academic papers. However, this year, again, it seems that this was not enough to address what may be a more deeper underlying issue.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	There seems to be no particular problems regarding this.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	I tried to incorporate as many chances as possible to conduct group activities, discussions, and presentations, and I felt that students were able to gain a greater understanding of the course material, and a deeper interest in the course, through sharing opinions with their peers and experiencing more practical applications of the course content. I would like to incorporate even more opportunities for these kinds of activities next year. With more class time being allocated to these activities, there was a need to adjust the amount of content covered, which I feel I was generally able to achieve, although there is room for improvement. In relation to this, I worked on simplifying the lecture handouts to make them more simple and more effective at supporting student learning. I think I could make progress regarding this, but would like to continue to refine them next year. The final paper is a major chance for students to demonstrate and further apply their understanding of the course content. However, with many students seeming to lack a deeper understanding of how to write an academic paper, I felt that students were not able to achieve their full potential. This year again I incorporated time during class to introduce resources for this, however this did not lead to huge improvements in the quality of papers. As this course is not about learning how to write an academic paper there is not much class time that can be allocated to instruction of this. However, this is something I would like to consider more when teaching this course next year. One possible approach could be to offer out of class chances to learn about how to search for resources, and how to write academic papers.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	This year I aimed to increase the amount of discussion time, and to simplify the lecture handouts. I think I could achieve this to some extent, and that it helped to improve student understanding. However, there is still room for improvement. In addition, the overall academic focus of the class might be a bit too much for some students, and an adjustment of the focus of the course and topics covered might possibly be necessary to consider at some stage. In addition, I would like to find an appropriate method to deal with the issues that many students face when writing academic papers.

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
エリア・スタディ I	2	前期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The main aim of this course was for students to begin to learn about key elements of Australian history and society through the lens of race, specifically looking at the topics of multiculturalism and Indigenous Australians, and to learn about the materials and methods they can use to research these issues themselves. In light of student feedback from last year, similarities between Australia and the United States, Canada and New Zealand were highlighted more during the course itself, and as in previous years, through the main assessment tasks students were given the opportunity to research the main themes (multiculturalism and Indigenous issues) in the context of their chosen country of interest: Australia, the United States, Canada, New Zealand or Japan. The course is taught using a Content and Language Integrated Learning (CLIL) approach, and thus provides a challenge to students in that they need to understand and also explain the course content in English. Scaffolding was provided to support understanding of the content, however it is possible that a greater emphasis on this could be made in future years, perhaps specifically in supporting students' use of English in their assessment pieces.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。						
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	The majority of students displayed a good understanding of the course learning points and engaged deeply with the materials, as demonstrated through their performance on the assessment pieces. However, a significant number of students failed to submit any of the major assessment pieces. It is unclear if this is because the assessment pieces were too difficult for them content-wise, language-wise, or technology/skill-wise, or if it was connected to missing too many classes and falling too far behind to catch up. I adapted elements of the course and assessment content this year to try to better support (all) student understanding, however more scaffolding may need to be provided. The fact that the main platform I have used to have students create and submit their work was discontinued for general use, and that I had to switch to a different platform could have contributed slightly to some difficulties experienced here. In addition, I increased the number of major assessment items to three from two, and I will need to consider if this was also a factor.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	There seems to be no particular problems regarding this.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Although I felt that the majority of students managed to engage well with the content, showing a good level of understanding, I think I can continue to adjust the content, assessment, and methods of instruction to better support student learning. I'd like to consider how to support the language element of the course, in recognition of the fact that this might be a particular issue for next year's cohort. I will also need to reconsider how to do the main assessment tasks given that the platform used to date is now unavailable, and alternative platforms seem to be a bit difficult for students to use. I'd also like to consider the amount of assessment involved in the course, and how this is presented and explained to students, as this is another area that I feel can be improved.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	Overall, I felt that I could achieve the course aims. However, there are several areas which can be improved, as outlined above, and I plan to work on these when designing next year's syllabus and delivering the course next year.

学科	英語学科
氏名	池口 功晃

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際経済入門	2	前期	選択	はい	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は、「異文化コミュニケーションⅠ」「エリア・スタディⅠ」と共に1年次に履修した「国際理解科目」の発展的内容を取り扱うことが予定されている。この点については受講動機においても「関心のある内容である」という項目が53%と相対的に高い比率を示していることから、授業への期待を窺うことができる。また、本授業は観光文化学科との合同授業であるため、経済の基礎知識を織り交ぜたレジュメを作成・配付することで丁寧に授業を進めた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」という項目の平均値は3.6とやや低いため、DP4はやや達成されたと判断されるが、到達度自己評価項目のその他の項目の平均値は、3.9以上となっているため、総じて達成されたと判断できる。また学生からのコメントで「面白かった」との自由記述があることもこの裏付けとして捉えることができる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP全体の平均値は3.9以上をマークしており、内容的妥当性については特に問題がないと判断できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価項目をみると、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」という項目の平均値が3.5と比較的低いものの、その他の項目は4.2以上となったことから、学生に発表する場を設けながら今後もさらに質の高い授業を展開していきたいと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	全体としては授業目的は達成されたと判断できるものの、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目の平均値が3.5と比較的低かったため、今後は学生に対して発表の機会を設けるなどの工夫を検討していきたい。

学科	英語学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
インターンシップ	2	前期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	インターンシップに関する基礎知識を得て、就職活動におけるインターンシップの重要な位置づけを理解し、自身にとっての就労の意味や自分自身への適性や感じ方考え方の傾向を認識できるように働きかけた。また、仲間と互いにエンパワーし成長する体験を通して、卒業後に社会に主体的に関わる意識を身につけられるように、意見を交換する時間を設けた。インターンシップに必要な書類を自身で作成できるよう実践的な課題を宿題として課した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	授業時に課したすべての課題が提出された。インターンシップに臨む際に求められる知識と考え方は身につけたといえる。また、事後報告書からは、実際のインターンシップには全員が積極的に参加し、社会人として必要なマナーが実践できたことや就労体験が今後のキャリアに活かせることがうかがえた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	インターンシップが、職業人としてのスキルや意識を身につけるでなく、現在の大学での学習や体験が、卒業後の社会人としての職業生活に活かすこと、ビジネスキャリア形成へつながることを認識できたことが最後の報告書からうかがえた。インターンシップに安心して参加でき、現場で自信をもてたことが、今後の就職活動、ひいてはビジネスキャリアにも生かされると期待できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	意見をみんなの前で発表することを奨励し、チームで意見を交換しながら仕事をするという認識を高めた。経験豊かな外部講師から講義を受け、講師が子育て中の女性であった為ロールモデルとして、学生のライフキャリア形成を意識できる機会とした。インターンシップを大局的に自身の先々のキャリアを見据えた体験になるよう意識づけを行った。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	安心して就労体験に臨めるよう、事前に、座学にて仕事の現場でのマナーや身だしなみ、敬語の使い方などを学習したことは効果があった。また、卒業後に社会に主体的に関わる意識を身につけられた。

学科	英語学科
氏名	広瀬 美保子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
職業選択と能力開発	3	前期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の特性上、就職活動につながる実践的な内容のレポート（自己PR・ガクチカなど）の提出を求めると共に、面接やグループディスカッションなどの実践を行うことで就職への意識の醸成ができる事に重点を置き、授業を行った。授業の中だけでは、完結できない企業研究については課題としていたが、準備性においては授業の内容により差が生じた為、結果としてはやや不足している。自由記述では、授業に積極的に参加したや就職活動へ意識を向けられたとの意見もあり、レポート内容や実技においては、学生の学習目的に即していたと理解する。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された		達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価の指標「学習達成度の自己評価」では「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」19人/20人中、「職業倫理や行動規範（守るべきルールなど）について学ぶことができた」16人/20人中、「職業選択の参考になった」15人/20人中がかなりそう思うとの評価であった。シラバスの標準的レベルが概ね達成できている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	キャリア形成科目の中で、インターンシップ・現代ビジネス人材論で得た知識を、本科目では、実際の就職活動へ意識を転換し準備する授業内容である為、内容は妥当であると考える。 「自由記述」からも、就活について調べて情報収集をするようになったや面接やES対策など、自分で調べて授業の内容を無駄にすることのないようにしたとの意見もあり、学生の目的意識に合致していることも、内容の妥当性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の準備において、説明部分の情報量の調整が課題である。各授業後に事前準備は告知していたが、「学修のための情報利用」で教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てたが7人/20人中であったことから、初期の段階での周知方法の再考が必要と考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	シラバスに表記した学生が達成すべき行動の目標の標準レベルは、ほぼ達成できたと考える。授業での知識を就職活動として学生が行動化に移せる課題も、必要に応じて内容に盛り込む事も検討できれば、更に職業選択と能力開発に結びつくと考える。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	柳 純

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際ビジネス論	3	前期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義では3年次配当科目であることから、専門性が高い内容を教授することを意識している。ただし、社会科学系の科目である点を考慮して、受講者の理解度を高めることを優先した。 学生の受講動機は「単位数の確保」（60%）が最も高い回答率であったが、続いて「関心のある内容」（40%）や「資格取得必要」（30%）から関心度はある程度うかがえる。しかし、受講者の学習準備状況は1回30分程度の準備が「0回」が50%を占めている状況であり、「1回」が30%、「2、3回」が20%となっている。本講義では課題を課した回やレポート提出による評価につき、当該回のみの学習しか自主的にしていないことがうかがえる。また自由記述欄には「講義内での学びが多かった」や「授業で十分だった」の回答が見られた。 講義では事例として映像（動画）を見て考える時間を設けたり、次回に繋がるような内容になるよう意識して授業計画を立てたい。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本講義の受講者14名の内、成績評価はSが2名（14.2%）、Aが4名（28.6%）、Bが7名（50.0%）、Cが1名（7.1%）、Dが0名（0%）であった。この結果から目標を達成していた受講者は多いが、「授業の課題以外に学習に取り組んでいたか」との問いでは、80%がしていないとの回答をしており、受講者が積極的に取り組んだ成績結果ではない点もうかがえる。 また、到達度自己評価で「かなりそうだと思う」の割合が高かった項目は、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」や「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「職業選択の参考になった」（各50%）であり、平均値は4.1～4.4であったことから、目標は達成できていると考えられる。とりわけ、産業（業界）に関する情報提供も行った点が評価として表れていると考えられる。この点は産業の最新データや企業情報なども盛り込みながら次年度も継続したい。 情報利用の点で「シラバスの記載を参考にした」受講者は60%と昨年よりも多くなっているが、「図書館利用」は20%で多くはない。なお、インターネットのHP利用は30%であった点から、学生自身が情報の入手を自ら行う時間の確保や課題を課すことで、より理解度が増すことが期待できるため、次回には実践していきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義におけるDPのウエイトは、「思考・判断」（45%）、「知識・理解」（25%）、「関心・意欲」（15%）の順に高く設定している。受講者の到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり新たに得ることができた」や「職業選択の参考になった」などの項目が高くなっている。また、受講動機の中では「関心のある内容である」の項目の選択率も上位であることから、妥当であるとの判断ができる。 ただし、「国際」に係る科目であることから、主たる受講動機として「単位数を確保する」の割合が非常に高くなっている点は、今後とも精査する必要があると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	前期ではカリキュラムで示した「授業計画」通りに、内容を進めることができた。とりわけ「授業の質評価」の面においては、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」と「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の項目が高いレベルで評価されている。 主たる受講動機にも現れているが、本講義は「単位数を確保する」ためだけの科目ではないため、まずは、受講者の関心度を高めることにも注力しつつ、基本的な当該分野の知識や専門用語等の理解度を高められるよう、平易な表現や丁寧な説明に加えて映像（動画）を用いた事例を、講義内容に盛り込みながら進めていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合評価として、目標は達成できていると思われる。自由記述欄に「海外進出している日本企業を個人的にたくさん調べた」との積極的な講義への参加意欲がうかがえる意見があった一方で、各項目を見ると、受講者からは、例えば「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目は、「少しそうでないと思う」との評価が見られる。次年度では「到達度自己評価」部分で平均値が低い「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」や「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」などの評価が低い点を意識しつつ、国際展開している企業行動を理解させたり、国際ビジネスモデルに関する知識の習得ができるよう、適宜課題を課したり、各回で当該授業の内容を確認させる時間を設けるなど措置を講じていきたい。講義では引き続き、国際ビジネスの事例に該当する映像（動画）などを盛り込みながら進めていきたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	広瀬 美保子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
航空ビジネス研究	3	前期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	航空業界をサービスや空港・飛行機に関する内容だけではなく、ビジネスとしての航空業界に重点を置き授業を行った。また、成長産業として最新の航空トピックスを毎回事前に調べ発表することを課題としたが、準備性につなげるには課題が残った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の授業アンケートの「学習達成度の自己評価」より、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「職業選択の参考になった」において、個人差が大きくなった為。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	キャリア形成科目として、専門性を追求する為には航空の実業務内容に係る内容と航空ビジネスとしての内容と双方で学習する必要がある為、内容の妥当性は問題はないと考えるが、カリキュラムとしては時間的な観点より課題も感じる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	専門性の高い授業内容であった為、テキストを活用することに改善が必要である。「授業の質評価」期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであったの間に對して、意見が分かれた。毎回、次回授業の内容をシラバスを活用し説明していたが、視覚として内容（詳細項目）を確認する必要があると考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門性の高い授業内容であったが、興味・関心を持ち学生が積極的に授業に参画していた。また、グループワークと発表を通して、理解と知識を深化させた。改善すべき点は、準備性の向上であり、改善策としては専門的な内容である為、授業でのテキスト使用を検討する必要もある。

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育ボランティア演習	3	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 履修した学生は教職課程を履修していない学生もいたので、教育学や教育心理学などを学修したことがない学生でも理解できるように、専門用語の使用等については配慮した。また、中学校で学習ボランティアを実施することを予定していたので、学習指導要領の内容等についても、適宜解説するようにした。 ② 先方の都合により中学校での学習ボランティアを実施することができなかったため、日本の生徒たちがICTを利用して海外の生徒たちと交流できるプログラムを作成し、実際に自分たちで運用し、韓国の高校生と大学生にそのプログラムを紹介した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	履修している学生は理想的レベルに達していた。到達度自己評価については、すべての項目について「かなりそうだと思う」と回答しており、自己評価も高かった。また、「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」という質問に対して「取り組んだ」という回答もあり、授業での学びが自主的な学修につながっている様子も窺えた。予定していた中学校での学習ボランティアを実施することができなかったが、他の形のプログラムに変更し、シラバスの内容に沿った形で実施することができ、学生もきちんとそれに対応していた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみての内容的妥当性 1、2年生の専門教育科目で習得した知識や技能を用いて、児童生徒の学習を支援する活動を行うこととその準備や振り返りが授業の主要な部分であり、内容的には妥当であったと考える。 ② DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から学生の達成度は高く、良い成績をおさめていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ③ まとめ 以上から、内容的には妥当であったと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価については、全般的に肯定的に受け止められており、概ね適切に運営できたと考える。情報機器の操作の方法を身につけやすいように、全体と個別で説明したり、いつでも見本を見ることができるようにするなどして工夫した。また、学生の発表が適切に実施できるように、気をつけるポイントなどを分かりやすく示すようにした。それらのことから、日本の学校と海外の学校がICTを活用して交流するプログラムの作成と、それについての発表を学生は概ね適切に実施することができた。しかしながら、それぞれの学生の使用している機器の環境の違いから、戸惑う学生もいたので、その点にも配慮する必要があった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	予定していた中学校でのボランティアの実施が急ぎできなかったため、前年度立てていた計画を修正して授業を行ったが、履修している学生の成績が標準的なレベル以上に達していることから、当初想定していた教育目標は概ね達せられたと言えるだろう。来年度以降も、外部の状況が変化しても授業の実施が滞りなく行えるようシラバスを準備しておきたいと思う。

学科	英語学科
氏名	山崎 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
児童英語教育入門	3	前期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・授業内容については、文部科学省によるコア・カリキュラムを参考として構成している。 ・本授業は教職関連科目ではあるが、選択教科として教職志望でない学生も登録している。教職志望者には十分に背景知識が得られること、志望者ではない受講者には、本授業を通して、現行英語教育や自身の英語学習体験へ理解が深められるよう計画した。授業では教科書の内容を補足する背景知識や関連事項を加えたワークシートを準備している。 ・学生の理解度の把握やコミュニケーションの場としての毎授業後のフィードバック、課題提出はGoogle Classroomに行うこととした。 ・毎授業の終盤は、教材紹介とクラスの雰囲気作りのために、外国語活動や外国語の授業で活用できる歌やチャンツ、ラ임などを紹介することとした。 ・授業フィードバックの提出を「レポート課題以外の課題」として設定しているため、毎授業後の提出は必須となっている。負担とならないよう、出来るだけ授業時間内に記入できるように考えた。また必ず返信を記入することとしている。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して やや達成された	知識理解（DP1） 達成された	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3） 達成された	態度（DP4） やや達成された	技能表現（DP5） 達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	・学生の到達度自己評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均値が4.2であり中間値が4.0であった。成績分布では、受講者全15名のうち、A4名、B9名であった。 ・「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」では、平均値4.2、中間値5であり達成されたと考えている。 ・「専門分野の課題を検討する力を得た」では、平均値4.1 中央値4.0であり、両方において十分な達成感となっていない。 ・「学びを深めたいと意欲を持つことができた」については、平均値3.9、中央値4.0で高いとは言えない。 ・「技術を身に付けたか」「コミュニケーションン・表現力を高めることができたか」については、それぞれ平均値は3.8と3.9、中央値はどちらも4.0と向上を感じるには十分な達成感とはならない。ただ、コミュニケーション力・表現力については、過去の授業による訓練の成果が感じられる受講者が多かったことは付記したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・本科目は、教職課程履修者、日本語教師資格取得希望者にとっては必修であるが、同時に単位取得のための自由選択科目である。そのため、受講動機に幅があると思われる。一方、英語学科卒業後、人生のどこかの場面で「英語の堪能な地域人材」として児童（小学校）英語教育に携わる可能性は高いと考えている。そこで、全員が必要な知識を身に付け、判断の基準を持てるよう計画している。到達度評価において、「職業選択の参考になった」以外は中央値4.0以上であり、うち2項目においては5.0であったので、内容は妥当であったと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・「授業の質評価」において、全5項目のうち3項目（（1）（2）（4））において中間値5.2項目において4.0であった。平均値は4.3～4.0と全て4.0以上であった。 ・（1）レポート課題の評価基準の明確化のため、全レポート課題において授業内で説明を行った。またマイナスの理由となっている点を明示して採点した。 ・（2）期限内に行うべき学習の範囲や課題の明確化については（1）（5）とも関連するが、授業内での説明の他、フィードバックやメールなどでいつでも質問できるようにしていた。最終課題は授業初回に文書にて説明して、受講の成果として取り組めるようにした。 ・（4）「話し合い・意見報告」はグループワークに加え、フィードバックを利用して感想交流を行った。学生の真摯な学習態度に感銘を受けることが多かった。・「学習量の評価」においては、授業以外の学習時間が少ない学生が多かった。これは履修動機にも明らかなように教職志望でない受講者が多いことも関連していると思われる。また、自由記述において「課題のみで十分だった」「講義や課題で多くの学びがあった」「初めて学ぶことばかりだった」「授業での情報量が多くて授業だけで精一杯だった」との意見があり、殆どの受講者は授業にて基礎的な知識を得たと思われる。一方「授業でやったことを弟にやってみた」「課題について調べたり本を読んでみたりした」との記述があり、授業をきっかけに学びを深めた受講者も見られた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	・自由選択科目として、受講動機には幅があるが、シラバスに取り上げた項目に沿った内容には学生が概ね満足していると考えている。教職志望でない学生の毎授業後のフィードバックから、改めて自身の英語学習体験や英語授業を振り返ってより深く理解する機会となったり、現行の英語教育や教育全般についての視野を広げるきっかけになったりしていることが分かった。 ・対面授業が平常となったので、グループでの感想交流の機会をできるだけ設定し、学生間の学び合いを一層促進できるようにしたい。また、Google Classroomも併用できるので、レポート課題やフィードバック提出、学生との個別コミュニケーションが行えることを生かし、学生一人ひとりがきちんと学びに参加し、十分にに取り組めるようにしたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅰ	3	前期	必修	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると例年は当然ながら「必修科目である」100%であったが、今年は、「関心のある内容である」50%であり、受動的というよりは能動的な受講動機の数字も見受けられた。7人全員の学生が自由意志で第一希望としてこのゼミを選択してくれている。多くの学生が、ゼミの志願書に「文学を勉強したい」という趣旨の内容を記載しており、期待の大きさを感じた。②授業の初めに新聞を分析発表する活動をし、世の中の動きに対しクリティカルシンキングを促した。この活動は、人にわかりやすい話ができるようになる練習の意味もあるが、自分が取り上げた社会問題に関して、ニュースの記事に載っている以上の自分独自の解決方法を提案するようにもお願いしている。また就職活動での話題作りや、面接での応対練習にも役立ててもらいたい。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	出席する学生は全員毎回の課題をきちんとこなし、積極的な態度でゼミに臨んだ。7名中秀5名、優1名、良1名であった。優、良の成績の学生は減点となった理由は主に欠席が原因であった。授業の質評価は、全ての項目で5.0であった。上記のすべての項目において「達成された」と評価したのは、出席が安定した学生をベースに評価したからである。TOEICの点数を上げたいという意見が例年多いので、毎回の授業に十分程度ではあるが勉強する時間を今年も設けた。また苦手意識が多い数学の問題もSPIの練習として毎回少しずつ取り組んだ。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性：ゼミという特性上、専門分野に特化した内容を扱っており、学生の動機も明確であるので、妥当である。②DP、行動目標からみての内容的妥当性：内容的に妥当である。③問題なし
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の意見（一部）：生徒同士で意見交換する時間が、他の人の意見を取り入れることが出来て、とても面白かったです。イギリス映画は好きでよくみていたのですが、イギリス文学に触れたのは初めてだったので毎週、楽しく読み進めることが出来ました、気になったことや、派生した知識を得るために、調べ物などをしました。同じゼミの友達と読んでいる本についてたくさん話しました、など。特に最後のコメントは、文学の授業のゴールのような発言なので嬉しかった。ニュース、マナーやSPI、TOEICは、毎回Googleクラスルームに色々な資料を掲載している一環で、クラスルームの存在が学生にとっても教師にとっても重要なアーカイブ資料として役立っている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	文学好きの全員が第一希望で入ったゼミだけあり全員が円満で親しみやすい雰囲気を持続してくれ、学習意欲も高い半期となった。学生たちの文学の深読みの能力はとても高く、発表では意見を明確に表現できており、教師を感動させてくれる場面がたくさんあった。何かゼミという枠を超えて、研究を外部の世界とつなげる活動ができればいいのであるが、教員の力不足でまだ教室を出れないでいる。他のゼミを参考にさせていただいたり、教育学会などにも顔を出して、私が教育者としての質を上げていけたらと思う。再履修の学生も何とか卒業することが出来て安心した。

学科	英語学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	多様性と対話の文化で幸せな地域の実現は、より良い社会の建設は教育の成否にかかっている。教職を目指す学生には良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むよう学生に求めてきた。シラバスに記載したように教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出来るだけ厳選して授業に臨んだ。評価アンケートの結果をみるとおおむね達成できたと思われる。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	評価の根拠は定期試験の内容である。しっかりと授業者の求める論点に従って書かれている学生が多く、授業者の意図をよくくんで内容を理解していることがわかる。（客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる）授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	スマホ時代の真ん中にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解している。その為に毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。アンケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ学生らの意見の中には出来るだけ授業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新たな方法を試みてみたいと考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	シラバスに表記した通り「学生が達成すべき目標」を4点、にまとめているが、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のいくものであった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	年度当初の授業目標はおおむね達成したものと考えている。しかし多様性と個別化を体現している現代の学生のニーズに対応してグループワークや発見学習など多彩な講義時間の運営方法の工夫とさらなる知恵を出していく必要性を痛感している。

学科	英語学科
氏名	大庭 正美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	3	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学習指導要領における特別活動及び総合的な学習の時間の位置づけや特質、内容などについて基本的な知識理解を中心としながら、小中学校での指導の実際についても取り扱い、実践的な態度の育成に資する授業に努めた。そのため、できるだけ実践事例の映像資料を活用していった。 ②授業の終末には授業内容を振り返り、シートに記入させるようにした。そこで出された気づきや疑問などを次の授業の導入で取り扱い、再確認できるようにするとともに、深い学びにつながるように努めた。 ③授業の内容に応じて、学生自身の学校での経験を想起させ、重ねて考えることができるように促した。そうすることで、理論と実践がつながりやすいようにし、就職後のイメージをもちながら学修できるよう配慮した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価においては、すべての項目が平均値で4.6であった。加えて、授業後の振り返りシートの内容の結果をもとに判定したトータルの成績においては、全員が70点以上を獲得したため、上記の観点において目標を「やや達成した」と判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	卒業後、英語科教諭をめざす学生にとって、学級経営や生徒指導、道德教育と密接につながっている特別活動及び総合的な学習の時間の指導内容は非常に重要である。そのような点から、学生の自己評価での項目（9）「職業倫理・行動規範について学ぶことができた」（10）「職業選択の参考になった」の数値が高い点などから、内容的な妥当性は高いと判断できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」項目については、いずれも高評価だったが、特に「説明が理解しやすかった」は全員が5（満点）評価だった。毎時間の振り返りシートの記述から、学校現場の実際場面がイメージしやすくなる映像資料を活用することなどが効果を上げたと考えられる。また、できるだけ丁寧に毎時間の振り返りに対して助言や補足説明などを進めたこともあり、学生の理解を深めることができたと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	将来、中学・高校の学級担任をする可能性のある学生であるため、学級経営との関連や教科指導との関連などを想定しながら授業を進めていった。特に、教育課程における特別活動及び総合的な学習の時間の位置づけや役割、特に特別活動の教育的な意義については繰り返し指導するように努めた。その結果、毎回の授業後の振り返りシートの記述などから、教職に対する意欲が向上していったことが読み取れた。 次年度も、特別活動及び総合的な学習の時間の本質を的確に理解できるようにするとともに、教職課程の授業として、教職への意欲を喚起し、より実践的な資質能力態度が向上するように、一単位時間の授業展開に関してもさらなる工夫改善に努めていきたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
特別支援教育論	3	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	4学科合同授業で、英語学科の専門性の特性からあまり馴染みのない専門用語等が頻出するので、講義中に確認しながら講義した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない		どちらともいえない			どちらともいえない
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学習達成度を確認する定期試験の結果から判断すると全般的に達成できたとは判断できない。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的には妥当であると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	他学科の学生のように医学的な用語についての馴染みが薄いのかかもしれないが、他の教職科目で被っている部分が多いと他学科の学生から指摘があることを類推すると、本科目の授業準備性についてはさらに確認して授業を進めるべきであったと考えられる。また、近年の学校現場で大きな課題となっていることから、十分な理解を深めるために予復習の時間を活用する課題の呈示が必要かもしれない。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	特別支援教育は通常学級に在籍している児童生徒を含めて対象としているので、教職を目指す学生にその理解のための学びについての動機づけを工夫する必要がある。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育方法論	3	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職課程の必須科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、授業内容の精査は常に行ってきた。 ②全体を、教育方法の歴史的変遷、学習指導要領の変遷などの基礎的知識理解を深める部分と、教育方法の理論にしたがったさまざまな具体的事例の考察の大きく二つに分けて、授業を組み立てた。 ③具体的な実践について、学生同士の意見交換を大事にしたいとグループワークを積極的に取り入れた。 ④グループワークの実践的力をつけるために、主にKJ法を用いた演習を実施した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①評価は、数度のレポート提出と3度の小テストの合計点で行った。 ②90点以上1名、80点以上90点未満2名、70点以上80点未満3名、60点以上70点未満1名であった。人数が少ないので、全体の傾向を論じることはできない。 ③基本的に「知識理解」のみの評価基準であり、多人数かつ複数学科の学生により構成されているので「態度」を判定することは困難である。 ④「知識理解」については、授業及びレポートで当該課題についての調べ学習をまず行わせたが、これについては比較的よくできていたと評価できる。しかし、調べ学習をもとに自らの課題としての認識を深めるまでにはまだ十分ではない。 ⑤グループワークを積極的に取り入れたことで成果もあったが、3年生の場合これまでの高校から大学入学までオンライン授業中心であったことから対面での授業を嬉々として楽しんでいる雰囲気があった。しかし一部には、人数が多いこと、学生が慣れていないこともあって活動しているだけというグループがあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、教職課程の科目であり、ほとどの大学でも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的妥当性については問題ない考える。 ②DPについて 教職課程独自のDPがないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①毎回のことながら、授業中に行った発言に対して批判的な意見があり、それについては真摯に受け止めたいと思う。しかしながら、明らかな誤解、憶測、思い込みによる批判については、納得はしていない。 ②本時だけに限らないが、受講者が一桁しかない授業評価において、アンケートに示される評価の数字にどれだけ意味があるのか疑問である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①2年時に履修した科目に引き続き、教職に関する専門科目としてはかなり専門的内容を含んだものである。これまでの学生自身の教育・学習体験を相対化、理論化できるようにとのねらいから取り組んだグループワークによる具体例の検証は、学生の反応がよかった。やはり「教育方法」という科目は、それ自身が教育実践として学生に提示されてしかるべきものであると改めて認識した。 ②次年度からは、授業内容をさらにバージョンアップして、授業を通して学生自らの課題と向き合うことが出来るような授業構成と方法を改善したい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	西原 真弓

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅱ	3	前期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この授業は、英語教科教育法Ⅰに引き続き、英語科の教育方法についての基礎的な理論や事項を学ぶ科目であるため、一方的に授業をするのではなく、学生たちに自分が受けてきた授業を振替させながら、何が課題であり、それをどのように改善していくことが必要なのかを自分事として考えさせるように組み立てた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	まず、知識の獲得に関しては、授業評価アンケートの到達度自己評価の(2)で検証できる。これに対する回答は平均値5.0であり、全員が英語教育に関する知識を習得できたと感じていることがわかる。そのため、「達成された」と評価した。知識以外の課題認識力、判断力や行動力などに関してもほぼ達成できていると言える。（(3)(4)(5)(6)(8)に対し全員が「かなり」「わりに」そう思うと答えている。）					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教科教育法は積み上げていく性質の科目であるため、Ⅰの次にⅡがあることは妥当である。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」の結果を見ると、すべてにおいてほぼ問題がないようである。すべての項目について、平均値が4.8か5.0であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	教員免許を取ろうとしている学生たちが対象であるため、その分野で理解しておくべきことやできるようになるべきことは明確である。学生の受講態度も非常によいため、到達度も高かったと言える。今後も学生たちが主体的に学べるように工夫を続けたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	西原 真弓

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅴ	4	前期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、4年次で教育実習に行き、そこで経験したことを振り返ることと共に、これから教育実習に行く学生たちの準備のための授業である。座学ではなく、実習を通して得た知見を、他の学生たちと共有できるように自由に発言ができる環境を作ること心がけた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの回答者数が9名中2名しかいなかったため、全体の総意を反映しているとは言えないが、回答している学生たちに関しては、目標はほぼ達成されたと言える。ただし、この科目は、実習での実地学修がベースになっているため、科目としてはそれぞれの体験の意味づけを皆で行うことが多かった。各人の経験に照らし合わせ、お互いの成長を確認することができたため、全体の教育目標としてはほぼ達成されたと言えるのではないと思う。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この科目は、教育実習と同時に開講されているため、常時学生が抜けている中で行われた。また、事前指導になる学生と事後指導の扱いになる学生という、授業を組み立てるのが難しかった。教育実習事後指導が別建てでおかれているため、この授業の位置づけは検討し直した方がよいと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの回答率が低いため、学生目線からは評価がわからないが、教員として、学生たちが主体的にお互いの成長を確認し合うことができていたことが素晴らしいと感じる。授業を見る視点であったり、教員という仕事について客観的に語り合うことができ、何が正しいではなく、教育方法は多様であってよいということを確認し合える学び合いの空間であったのがよかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教育実習でいつも学生が抜けている状態で、科目自体の意味づけが難しい授業であったにもかかわらず、教育実習を終えた学生たちの成長の大きさに皆で感動し合えるクラスであった。課題としては、教育実習事後指導が別に存在する中で、この科目で何をすべきか、また、毎週1回の15回開講という開講の仕方が教育的によいのか検討してもよいと考える。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道德教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道德教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道德教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	○2023年度 全体平均81.5、英語学科平均79.4、秀12.5%、優50.0%、良37.5%、可0.0%、不可0.0%、標準偏差5.83 ○2024年度 全体平均78.2、標準偏差12.1、英語学科平均83.8、秀25.0%、優75.0%、良0.0%、可0.0%、不可0.0%、標準偏差4.1。 ○本年度は秀と優のみで、全体平均より5ポイント以上高かった。非常に満足できる結果だった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道德教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○授業の進め方としては(1)道德とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道德教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道德の授業を組み立てる、というものであった。 (3)と(4)に関しては同時並行という形になり、常に自分ならどのような授業にしたいかを考えて授業に参加することを求めた。 ○本年度は実際の学校現場で用いられている各種資料の参照、理解度を深めるための課題等について多様な形式を工夫した。 ○指導案作りに関しては、いくつかの段階を踏んで作成できるよう課題作成・提出を組み合わせた。 ○今年度は道德教育の評価に関する学習を強化した。 ○実際の授業記録動画の視聴を課題とし、その上で授業中に動画を再生・解説するなど、実際の授業の雰囲気や教師の具体的指導方法の習得に務めた。 ○児童生徒を意識した授業づくりの楽しさを一層感じることができる授業としたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○達成状況は非常に満足できるレベルにある。 ○次年度も今年度同様の達成度を実現したい。また、未提出者が出ないよう段階的な学習指導案づくりの指導を続けたい。 ○授業実践動画の視聴と検討に時間をかけたが、これは比較的理解を深めるきっかけとなったと思う。次年度も同様の試みを継続する予定である。 ○授業時間中に行った指導案作成の演習形式の授業において熱心な取り組みが見られたので、このような形式をさらに取り入れたい。

学科	英語学科
氏名	秋山 俊史

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生徒・進路指導論	3	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①前年度同様、全国的に教員希望者が減少している中、100%の学生が「資格取得に必要である」と考えていることから、教職を目指すために受講したことが伺える。しかしながら、「関心のある内容である」が0%であることは、生徒指導が「厳しく指導すること」という重たい内容であるというイメージを持って臨んだことがわかる。そのため、学校における生徒指導の実情とその対応について、事例などを織り交ぜながら実践的に学べるようにした。 ②基本的な教育法規や教科書、資料に示される内容の解説はもちろん、自身の教員や指導主事としての経験から得たより実践的な対応を示しながら、生徒指導は決して厳しく指導するばかりではなく、子どもの心に寄り添うことが必要であることを主に授業を展開した。 ③教師は、生徒や保護者、地域との良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力が求められるため、授業では学生自身が気づいたこと、感じたことなどを振り返るための「授業のまとめ」を毎時間提出させた。さらには、問われていることの意味を理解する力や、自分の考えをまとめ伝えることのできる力などを身に付けるため、採用試験における小論文や面接対策のための指導と併せて、定期試験を含む3回の小論文実践をおこなった。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された		やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の試験は小論文であるため、与えられたテーマや課題に対しての知識や理解度とともに、自分の思いや考えをわかりやすく表現する文章表現力や説得力を評価するものである。講義の中で小論文の書き方指導を経て2回の小テストを実施した。その結果、回を重ねるごとに学生の論作技能の向上が見られるようになった。 授業形態については、昨年度同様事例研究の際のグループディスカッションを取り入れ、学生自身の考えを積極的に発言し、グループとしての意見をまとめ、発表するという活動を実施した。司会、記録、発表者など役割分担して討議を進め、活発な意見交換が行われた。到達自己評価では、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」で100%が「そうだと思う」と回答していることから効果は十分にあったと考える。 3. 授業準備でも述べたが、関心がない状態での受講であったものが、到達度自己評価「職業選択の参考になった」では100%の学生が「そうだと思う」と回答していることから、教職を目指すにあたって、教育活動全体を通して行われる生徒指導の必要性が理解できたのではないかと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上における本科目の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、教員免許の取得に向けた内容であるとともに、教員として資質を身に付けるための内容でもあり、教職課程では必須である。全ての学生が教職の道に進むとは限らないが、学生の目標に応えるために、学校現場の様々な実情に触れることで対応や指導方法を学ぶことができる授業であり妥当性があるものとする。 ②DPからみでの内容的妥当性 先述したように、成績評価は論文や毎時間の振り返りレポートの記述を通して、教師として必要な判断力、表現力、説得力などの向上度合、そして理解度を示すものであり全ての学生の評価は確実に上がっていることから、内容的には妥当性がある。 以上のようなことから、妥当性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、全ての項目で平均が4.4～5.0と比較的高かった。このことは、教員が振り返りレポートでの学生からの質問や意見に対して回答やコメントなどを記述しコミュニケーションを図ったことや、授業では学校現場における生徒指導の現状とその対応について教員の経験を踏まえて伝えたことが要因であるとする。 さらには、事例研究として「グループディスカッション」を継続し、自分の考えをはっきりと伝えること、他人の意見を聞いて新たな発見をすることで、視野を広めることなどを学ばせたことは大変効果的であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	未だ教職希望者が少ない状況で、採用倍率が低くなる懸念されている。要はこれからの教師の資質が問われ、そのことが今後の教育に大きく影響することは間違いない。まず学生が本気で教職を目指し、そのために多くのことを学び、努力する意識をもつことが必須条件であり、その土台の上に教育現場で即戦力となるための知識と実践力を育てる担当教師の指導があるのだと強く感じている。 時代と共に教育のあり方、考え方は日々変化している。学生に指導する教師自身も、様々な変化に対応できるよう情報収集に努めなければならないと感じている。 教師は子どもたちが日々成長する姿に感動し、その瞬間に関われるというやりがいのある職業であることを伝えてきた。今後学生が「何となく」ではなく、「是非教師になりたい」と思えるような授業を展開してまいりたい。